

政策	11 豊かな自然環境の保全						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民、職員						
施策が目指す姿	地域の貴重な財産である豊かな自然環境が次世代に引き継がれる。 地球環境にやさしい循環型社会の形成が図られる。 市民一人ひとりによる自発的な環境活動が展開される。						
成果指標	環境保全施策に対する市民満足度...5年間(H25～29)で65%へ増加(現状値60%) 環境保全に取り組んでいる市民の割合...5年間(H25～29)で100%達成						
目標達成状況		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	成果指標1 [%]	予定				65.00	/
		実績					
	成果指標2 [%]	予定				100.00	/
		実績					
	成果指標3 []	予定					/
		実績					
	成果指標4 []	予定					/
実績							
トータルコスト(千円)	予定	2,205,196	1,851,108	0	0	0	/
	実績	1,980,053	1,904,219	0	0	0	
内部評価	貢献度	環境の保全は市民の協力と参加が必要であり、本評価の指標である市民参加割合の達成は大きく貢献すると考えられる。					
	達成状況	成果指標の進捗は現段階では把握できないが、単位施策の達成状況が順調に推移しているため、目標達成が見込まれる。					
	課題	施設や人口の変化に伴い再度目標値の検討が必要である。また、環境の保全に関する事業の市民への更なる周知が必要である。					
	取組方針	自然環境の保全は市民の協力が必要であるため、市民へ事業の周知を推進し、目標達成を目指す。					
外部評価	豊かな自然環境を保全するためには、市民の協力はもとより、次世代の子どもたちの協力が必要である。そこで、小中学校に対しポスターや誌などを募集し表彰を行う、また、子どもたちとPTA、先生、市民と共同で体験学習を行う等の取り組みを提案する。また、循環型社会の形成においても、市民や企業との協力体制を強化するとともに、次世代を担う子どもたちの理解を深めるための取組みもあわせて実施してほしい。自然環境の保全や評価にあたっては、広く公有地や農地の全面積を対象として実施すべきである。						
基本施策達成のための単位施策	施策コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	1102	循環型社会の形成				11,432	100
	1103	新エネルギーの推進				59,690	100
	1101	環境の保全				1,833,097	95